

成長を続けるカブトムシ

2年生の農業では、野菜や草花の栽培に加えて、カブトムシの飼養を行い、地域資源を活用した持続可能な農業と地域交流を実践しています。

これまで、長期休業中は生徒が幼虫を持ち帰り、学校では授業の中で飼養管理の他に観察や体重測定を実施し成長を見守ってきました。休み時間や放課後の時間を利用して世話をし、鋭い観察眼から様々な気づきを教えてくれる生徒もいます。

さて、先日、幼虫の蛹化に備え、最後のマット交換を行いました。蛹になるためには、マットの適度な固さが必要のため、飼養ケースの下半分は棒でマットを押し固め、その上に幼虫を置き、その後は柔らかいマットを充填しました。交換の際、幼虫の体重測定を実施し、全生徒のデータを集計したところ、下図の推移が見られました。昨年末まで増えていた体重は2月に一旦減少しましたが、その後は増加し、順調に成長していることがわかりました。



今後は、マットの主原料となるキノコ廃菌床の活用法と菌床栽培について、(株) 一路様からご講義をいただき、カブトムシに係る持続可能な農業について学びを深めていきます。また、成虫の譲渡による地域交流に向け、市内の保育園等と調整を進めていく予定です。

